

交響詩と交響組曲の名曲を集めて

プログラム

今日はリクエストもありました**交響詩**と**交響組曲**を特集します。**交響詩**は管弦楽による“詩的で絵画的な要素を持った一種の標題音楽です。最初にこの言葉を使い始めたのはリストでしたが、一楽章形式の楽曲に対して交響詩と呼称されるのに対し、ベルリオーズの幻想交響曲などの多楽章形式の楽曲は標題交響曲として区別されています。しかし両者の性格は極めて強い類似性を持っています。交響詩の歴史を紐解くと歌唱だけで歌われるグレゴリオ聖歌の存在と交響詩の興味深い関連が伺えます。そこで交響詩と共にグレゴリオ聖歌を一曲聴いていただきますが、作曲者が分かっているという大変珍しい曲です。ムソルグスキーの『禿山の一夜』は“聖ヨハネ祭前夜、禿山に現われた地霊チェルノボグが魔物や精霊達と饗宴、教会の鐘が鳴り、夜明けと共に消え去っていく”という民話に基づいています。ピアノ曲『聖ヨハネ祭前夜の禿山』が原型で、1867年に管弦楽による原典版が作曲されましたが、今日では作者の死後1886年に発表されたリムスキー＝コルサコフによる改訂版が最も知られています。ドヴォルザークは交響詩を5曲残しましたが、『真昼の魔女』は詩人エルベンの「花束」という詩集の中のバラードに靈感を得て作曲した4曲の中の一曲で、魔女が自分の悪口を言った母親に復讐するという物語。巧みなオーケストレーションが光る名曲です。リヒャルト・シュトラウスの『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯』は14世紀に実在したとされる伝説的人物の様々なエピソードをユーモラスに描写した中期の名曲。フェアリアの『スペインの庭の夜』はピアノ協奏曲の形態を取っていますが、ジャンルとしては交響詩として扱われます。色彩豊かな管弦楽に情緒たっぷりのピアノが溶け込み、絵画的な情景が浮かぶ名曲です。**交響組曲**は管弦楽による標題性の強い組曲の形式をとった楽曲で、交響詩の変型とも言えます。「千夜一夜物語」からのエピソードからなるリムスキー＝コルサコフの『シェエラザード』は華やかな管弦楽法が見事な傑作です。(中川)

モテスト・ムソルグスキー (1839~1881) (リムスキー＝コルサコフ編曲) : 交響詩 “禿山の一夜”

エフゲニ・スヴェトラーノフ指揮ロシア国立交響楽団
(1992.10.1 ウィーン・ミュージクフェラインサールでのLive)

テオドウルフォ (推定750~821) : グレゴリオ聖歌 “賛歌 栄光と讃美と” 第1旋法

フランシスコ・ララ指揮サント・ドミンゴ・デ・シロス・ベネディクト派修道士合唱団
(1981 サント・ドミンゴ修道院)

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904) : 交響詩 “真昼の魔女” op.108

アラン・ギルバート指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(2009.4.19 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

リヒャルト・シュトラウス (1864~1949) : 交響詩 “ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯”

ウォルフガング・サヴァリツシュ指揮フィラデルフィア管弦楽団
(1993.5.18 サントリーホールでのLive)

*** 休憩 ***

マヌエル・デ・ファリャ (1876~1946) :

交響的印象 “スペインの庭の夜” ~ 第1楽章、第3楽章 第1楽章 ヘネラリーフェにて (第2楽章 はるかな踊り) 第3楽章 コルドバの山の庭にて

ラファエル・オロスコ (ピアノ)
ラファエル・フリユーベック・デ・ブルゴス指揮ウィーン交響楽団
(1995.2.9 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

ニコライ・リムスキー＝コルサコフ (1844~1908) :

交響組曲 “シェエラザード” op.35 ~ 抜粋 (1.海とシンドバットの船 2.カランダール王子の物語

3.若い王子と王女、4.バクタッドの祭り。海、船は青銅の騎士のある岩で難破。終曲)
セルジユ・チエリビダツケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
(1984.4.19 ミュンヘン、ヘルクレスサールでのLive)